

ミックスプレッション9 視察

開催日：平成20年5月10日（土）
場所：東京都江東区青海1 お台場青海Q区画
主催：Tokyo Bike Messenger Association
参加資格：18歳以上の健康な男女、自転車で参加できる人
参加費：Webエントリー3,500円、当日5,000円
観戦代金：1,000円
時間：受付9:00閉会21:30
競技開始10:30
参加人数：162人



大会会場

開催場所のお台場は、最近では修学旅行などの団体客や幼児を連れたファミリー層が目立つようになり、セレブのたまり場ではなくなっていた。空き地もあり、広く交通量の少ない道路などの条件により、サーフィン講習会、トライアスロン、夜のマラソン大会なども開催されている。



当日の天候は終日雨の予報だったが、午前中はどうにか傘を差さずにすんだ。5月なのに3月並の気温と冷たい風で震える気候条件だった。雨が降っているし、入場料が千円するので、通りすがりで観戦入場する人はいない模様、ほとんどの観戦者は応援の仲間達と思われた。寒かったのでベビーカーを押す家族は早々に帰って行った。



フジテレビ等の繁華街からは地下を走る幹線道路が悪天候の理由だけでなく人の流れを遮っていた。塀で囲っている訳ではないので、金網越しや高台からでも観戦できるのだが、屋外を散策する人はいなかった。お台場はもともと屋内施設が充実しているので、浜辺以外は人通りが少ない。フジテレビの見学コーナーやアクアシティなどは大変賑わっていた。


今回の大会は何もない平らな広場（メインレースは少し砂利道を通る）に立ち入り禁止に使用される黄色のテープで仕切ってコースを作っていた。

【スケジュール】

- 9:00~12:00 参加者受付
- 10:00~11:00 試走
- 11:00~13:00 メインレース予選
- 13:30~15:30 スプリントとスキッド
- 16:00~17:30 メインレース決勝
- 18:30~19:30 自転車騎馬戦
- 20:00~21:00 表彰式



競技

メインレースは実際のメッセンジャーの仕事を競技にしたもので、荷物をピックアップし、デリバリーする、細かいルールがある。今回の予選はスタート直前に指示書が配られ、指図書に書いてある集荷配達を終了した時のタイムを競う。集荷の順番は指定されているが、配達
の順番は自由なもの
と至急便がある。コースは一方通行なので、瞬時のコース取りがタイムを稼ぐことになる。逆走は危険なのでその場で、失格となる。指図書を唇で挟んだり、ケースにしまったりと思いつきのスタイルで走っていた。中年と思しき風貌の参加者もいて、優勝が優先事項ではない、和やかな雰囲気
でレースは展開していった。

決勝戦は16:30から始まった。予選上位の50人の参加者が一斉にスタートし、1時間30分の間で指図書どおりの配送の個数の多さを競うものであった。

荷物の受け渡し時の気の聞いた話術とか真摯な態度とかを評価する賞もあったら、楽しいと感じた。

スプリント競技は200mの直線距離での早さを1レース5人1組のトーナメントで競う。時速0からの加速なので凄みはなかった。

スキッド競技は固定ギアの自転車を使用して、後輪をロックさせて滑る距離を競う。その姿はユニークである。メッセンジャーの競技種目には、次のようなものがある。

バンナーホップ：自転車で棒高跳びを競う。

トライアル：曲乗りを競う。ポンコツの自転車の上に乗ったりする。

トラックスタンド：自転車に乗ったまま不動体勢を続け競う。手を離したり、足を離したり条件を徐々に加えていく。

自転車騎馬戦：手はハンドルを握り足はペダルに付け、体をぶつけ合う。チーム戦では大将が足を地面に着けたら負け。

会場内の出展

フリーマーケットは雨にもかかわらず、品物を広げていた。フレームを保護する和装に使用される綺麗な生地で作られた小物を初めて見た。チューブを縫い合わせたメッセンジャーバックや財布なども売っていた。1日楽しく過ごせそうな会場だった。



(平成20年5月26日)

(本大会関係者は、自転車の環境造りへの貢献も考えている。財団法人日本自転車普及協会が主催する第3回「自転車研究会」においてバイシクルフィルムフェスティバルとして参加し、現在の自転車の状況を内側からの視点で紹介する予定になっている。)